松江
開府400年祭
2007～2011

神の集う地、出雲に舞う。
人が神々を感じる一瞬（とき）

出雲神楽

古事記編纂1300年に向けて●IZUMO KAGURA FESTIVAL

フェスティバル

日時
平成22年
10|17日→24日 8日間
いずれも18時30分開場　19時開演　21時終演（予定）

会場
松江テルサホール
島根県松江市朝日町 478－18（JR 松江駅前）
Tel 0852-31-5550　定員：450名

参加社中
10.17（日）大土地神楽保存会神楽方
10.18（月）出雲國大原神職神楽保存会
10.19（火）見々久神楽保持者会
10.20（水）南加茂貴船神楽社中
10.21（木）奥飯石神職神楽保持者会
10.22（金）海潮山王寺神楽和野社中
10.23（土）槻屋神楽保持者会
10.24（日）亀尾神能保存会

入場料《一夜公演につき》
大人／700円（税込）
小人／300円（税込）※小学校６年生まで

●前売り券取扱所
松江テルサ事務所・しまね文化情報コーナー（島根県民会館内）
プラバホール・一畑百貨店・松江商工会議所
出雲商工会議所・平田商工会議所・安来商工会議所
まつえ北商工会・まつえ南商工会・出雲商工会
安来市商工会・雲南市商工会・飯南町商工会

左の面：翁式三番叟　黒式尉
右の面：日本武　東夷

●お問い合わせ：Tel 0852-32-0504（松江商工会議所観光振興課）

古事記編纂1300年に向けて●IZUMO KAGURA FESTIVAL

出雲神楽フェスティバル

演目は予定です。
当日変更になる場合が
ありますので、
ご了承ください。

10/17 日
大土地神楽保存会神楽方（おおどち かぐら ほぞんかいかぐらかた）
出雲市大社町

大土地神楽は、古くから大土地荒神社の神主によって舞われていましたが、寛政10年（1798年）の「神家順番帳（とうやじゅんばんちょう）」などの記録によると、その頃から氏子達によって舞われていることが確認でき、300年以上途絶えることなく受け継がれています。

その舞い振りや奏楽は、石見神楽や他の出雲神楽には見られない特徴があり、囃子についても独特です。また能舞の要素が多分に含まれた舞いも残っており、腰に「まくら」を背負った上に衣装を着けるといった、独特な容姿となっています。昭和60年に島根県無形民俗文化財、平成17年に国の重要無形民俗文化財に指定されております。

演目（予定）　山の神（ヤマノカミ）　八千矛（ヤチホコ）　日本武（ヤマトタケル）

10/18 月
出雲國大原神職神楽保存会（いずものくにおおはらしんしょくかぐらほぞんかい）
雲南市大東町

古い記録によれば本会の伝承する神楽は、今から約450年前の慶長年間にすでに舞われていたとされる古くからの伝統を受け継ぐ神楽であります。明治5年の神職演舞禁止令によって一時中断した時期もありましたが、密かにこれを伝習していた先輩があって、大正になって再興会を結成し、さらに今日、出雲國大原神職神楽保存会として保存継承に努めています。純粋な出雲流神楽の一つとして島根県の無形民俗文化財の指定を受けており、現在会員が32名いて、後継者の育成を目指して毎年定期公演会（6月第3土曜日　於・古代鉄歌謡館）も開催しています。ヨーロッパ公演をはじめ、伊勢神宮、東京、関西、九州の各神社での奉納なども行い、それぞれ好評を得ています。

演目（予定）　清め（キヨメ）　畝傍山（クネビヤマ）　天神記（テンジンキ）　國譲（クニユズリ）

10/19 火
見々久神楽保持者会（みみく かぐら ほじしゃかい）
出雲市見々久町

見々久神楽は出雲神楽の代表的なものの一つです。能面は、約300年前に作られ、作物が豊かに実り人々が幸せに暮らせることを祈って舞継がれています。

見々久神楽はいろいろな貴重な曲目を残しています。出雲神代神楽の特徴であります「七座」、「能舞」、「狂言」による24段の舞を保持しており、昭和36年に島根県教育委員会より県無形民俗文化財に指定されました。24番ある曲目のうち、とりわけ式三番の「翁」と狂言は、近くではここ見々久神楽より他に残すところはありません。

節分に出雲大社へ参詣に行くという旅立ての「節分詣り」は、能楽の狂言「福の神」「節分」などにもあります。これらと比較してみるのも面白いかも知れません。

演目（予定）　八頭（ヤトウ）　田村（タムラ）　彦張（ヒコハリ）　節分詣り（セツブンマイリ）

10/20 水
南加茂貴船神楽社中（みなみかもきふねかぐらしゃちゅう）
雲南市加茂町

貴船神社の鎮座する加茂町南加茂地区には、昔「里神楽」がありました。明治の神職神能禁止令により、神主に代わる神振いとして祭礼時には特に盛んに舞われていたようですが、いつの頃からか途絶えてしまいました。

昭和15年復活の機運が起きて数人の地区民によって再興が図られましたが長続きせず、そのままになっていたものを、神を祀るものと氏子が一体になってお祭りを賑やかにしようと同行者を募り、昭和45年の暮れに貴船神楽組を組織しました。南加茂神楽の確たる記録がないことから、ほとんどの演目について大原神職神楽の流れの神楽能を習得しつつ、さらに手を加えて貴船神楽として復活し、現在に至っています。

演目（予定）　田村麻呂（タムラマロ）　國譲（クニユズリ）　八戸（ヤト）

10/21 木
奥飯石神職神楽保持者会（おくいいし しんしょくかぐら ほじしゃかい）
飯石郡飯南町

奥飯石神楽は飯石郡飯南町の地区を中心に舞われており、奏楽については隣接する石見地方東部と共通性が強いとされています。神座に神を迎えるための清め・祓いを大切にするため七座の舞いを重要視しています。

拝殿で祭式として舞う洗練された奏楽と、地味な中にも味わい深い舞いが特徴の神楽です。演目数も数多く、他の出雲神楽にはあまり伝承されていない珍しい演目も保持しています。本来は神職神楽ですが、現在では各地に氏子の神楽団があり、神職とともに奉納神楽を務めています。昭和36年に島根県の無形民俗文化財に指定されています。

演目（予定）　剣舞（ケンマイ）　八頭（ヤトウ）　日御碕（ヒノミサキ）

10/22 金
海潮山王寺神楽和野社中（うしお さんのうじ かぐら わのしゃちゅう）
雲南市大東町

「古事記」「日本書紀」などの日本神話の3分の2は出雲神話で占められています。その出雲神話の舞台となった地に「海潮山王寺神楽」があります。

およそ400年の伝統を持つ海潮山王寺神楽は、その舞の美しさや奥深さが高く評価され、昭和36年には島根県の無形民俗文化財に指定されました。

明治34年出雲大社宮司に認められ、出雲大社に所属出雲大社教神代神楽本部となり、以来110年来毎年5月の大例祭には3日3夜神前にて奉納しています。

昭和40年には出雲大社において天皇、皇后両陛下の天覧啓覧の光栄にも浴した由緒ある神楽です。

演目（予定）　清目（キヨメ）　香具山（カグヤマ）　国譲（クニユズリ）　簸の川大蛇退治（ヒノカワオロチタイジ）

10/23 土
槻屋神楽保持者会（つきのやかぐら ほじしゃかい）
雲南市木次町

槻屋神楽は素朴な古典神楽であり、11月の槻屋加茂神社の例祭や近郷諸社の祭礼に際して奉納されています。舞い、舞所の切り飾りなどに修験神楽にも通じる要素を多分に残していることから原出雲神楽を知る重要な手がかりを遺しているとして、昭和37年には島根県指定無形民俗文化財に指定、昭和53年には文化財保護法による「記録作成の措置を講ずべき文化財」に選択されています。

八岐大蛇退治の伝説の地である槻屋神楽の「八戸」は、その伝説にふさわしい雰囲気と迫力、さらに優美で幽玄な舞として評されています。

演目（予定）　柴佐（シバサ）　八戸（ヤト）　天神（テンジン）

10/24 日
亀尾神能保存会（かめお しんのう ほぞんかい）
松江市西持田町

亀尾神能は、出雲神楽の源流といわれる佐陀神能と同一系統の神楽です。氏神様の持田神社の主祭神に舞楽の祖神、天鈿女命が祀られていることから、江戸慶長年間より亀尾地区で代々保存継承されてきました。

形式は、「七座」「式三番」「神能」の三種で構成されています。「七座」は、素面で執物による七種のお清め神事舞、「式三番」は、祝祭、遷宮を寿ぐ舞、「神能」は、神話として伝わる神々のドラマを能楽の様式を取り入れて再現する神話劇といえます。

おなじみの八重垣（ヤマタノオロチ退治）他、12演目を完全に保存しています。能楽と同じように、笛や鼓、太鼓の囃子、神謡に合せた流麗な舞は、石見神楽等他地方の神楽にはない独特の味わいが残ります。松江市の文化財に指定されています。

演目（予定）　七座神事（シチザシンジ）　日本武（ヤマトタケル）　八重垣（ヤエガキ）

主催／松江商工会議所

後援／松江市・松江市教育委員会・松江開府400年祭推進協議会・（社）松江観光協会・島根県神社庁・松江旅館ホテル組合・山陰中央新報社・読売新聞松江支局・朝日新聞松江総局・毎日新聞松江支局・日本経済新聞社松江支局・山陰中央テレビ・BSS山陰放送・日本海テレビ・NHK松江放送局・エフエム山陰・山陰ケーブルビジョン・出雲商工会議所・平田商工会議所・安来商工会議所・まつえ北商工会・まつえ南商工会・出雲商工会・安来市商工会・雲南市商工会・飯南町商工会